

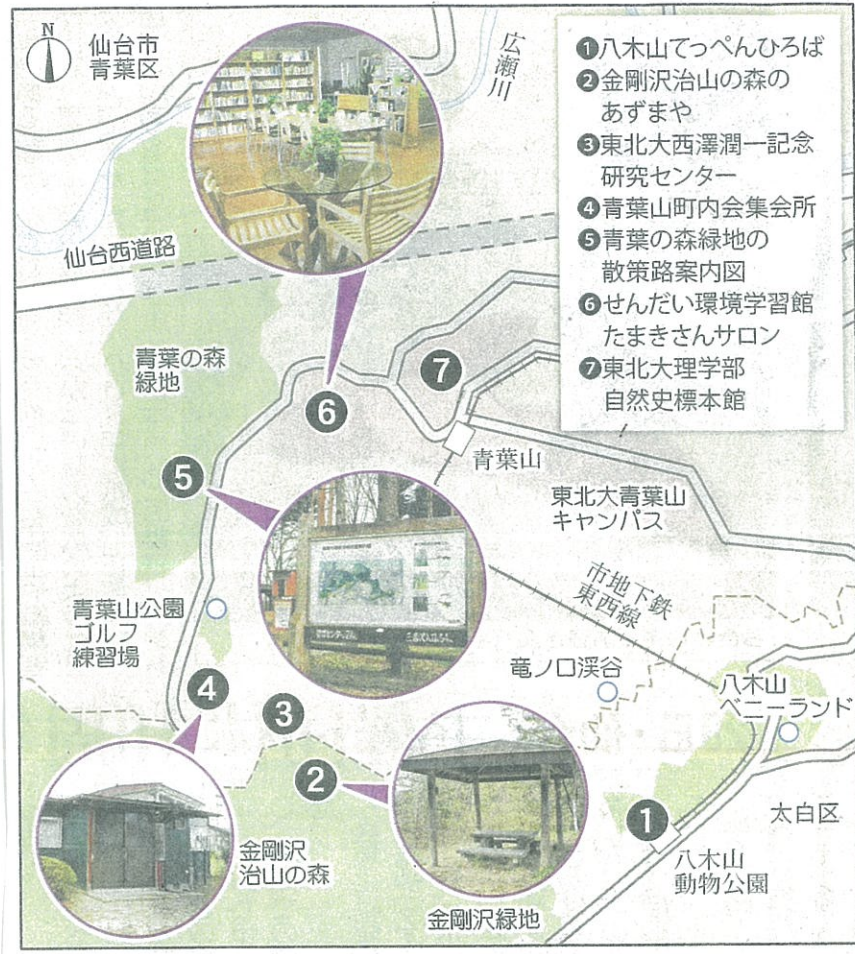
杜の都巡って感じて 4/4

自然豊か「殿様の道」

八木山と青葉山

遊園地や動物公園がある仙台市民の行楽地、太白区の八木山地区と、東北大の研究機関が点在する青葉区の青葉山地区。双方は最深70m、全長3kmもの竜ノ口溪谷によって隔たられ、遠く離れた印象を持つが、「実は両エリアって、徒歩で行き来できるんですよ」。市民団体「青葉山・八木山フットパスの会」(青葉区)事務局担当で東北大職員の内山隆弘さん(40)の後ろに付いて、市有林や国有林を通り八木山から青葉山へ抜けるルートを歩いてみた。

「実は両エリアって、徒歩で行き来できるんですよ」。市民団体「青葉山・八木山フットパスの会」(青葉区)事務局担当で東北大職員の内山隆弘さん(40)の後ろに付いて、市有林や国有林を通り八木山から青葉山へ抜けるルートを歩いてみた。地下鉄に乗って仙台駅からわずか木立の奥に現れた東北大西澤潤一記念研究センターの脇道から、青葉山地区の住宅地に出た。アパートや民家が並ぶ一角に、小さな雑木林が。「藩制時代、青葉山と八木山は伊達家の山でした。藩主らが狩りなどで通った『殿様の道』とされる痕跡が、所々に見られます」。言われてみる



地域の歴史 歩いて実感

と、木々の合間を縫う細長い山道があったように見える。

●地下鉄で一駅区間
フットパスの会が山菜を味わうイベントを昨春行った青葉山町内会集会所の前を通り、青葉の森緑地の散策路案内図を過ぎてから東北大青葉山キャンパスの門をくぐった。

広い敷地内に、学生寮など大規模な建物が次々整備されている。市環境局も2016年4月、大学院環境科学研究科棟の1階に自然や科学に関する図書を集めた「せんだい環境学習館たまきさんサロン」をオープン。近くには大学OBが寄贈した校の苗木を植えた広場や大学生協の食堂があり、一般市民も利用できる施設がいくつもあるようだ。

出発からゆっくりと2時間半歩いて青葉山駅に到着した。地下鉄で一駅の区間ですが、豊かな自然や地元の歴史的な魅力に触れられるエリアだということ、歩く実感です。まずよねて内山さん。同会は、西地区を散策しながら地域資源を掘り起こす取り組みを行っている。現在、現役引退後のシニア層が活動の中心だが、若い世代の参加も呼び掛けながら、地域の魅力を地道に伝えている。



「この辺りが『殿様の道』とされています」と雑木林の中を案内する内山さん＝青葉区荒巻青葉

「週刊せんだい」へのご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマをお寄せください。〒980-8660 仙台市青葉区五橋1の2の28、河北新報社夕刊編集部へ。ファクスは022(211)1255、電子メールアドレスはyoucan@po.kahoku.co.jp